

株式会社丸井グループ（2022年ソーシャルボンド）

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2023年6月23日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2277

Yukie Osari, yukie.osari@sustainalytics.com, (+81) 3 4520 2192

はじめに

株式会社丸井グループ（以下、「丸井グループ」）は、必要不可欠なサービスへのアクセス（資金調達と金融サービス）及び社会経済的向上とエンパワーメント（資産、サービス、リソース及び機会への公平なアクセスとコントロール。所得格差の縮小含む、市場と社会への公平な参加と統合）に関連するプロジェクトへのファイナンスを目的として、ソーシャルボンドを2022年3月（3年債1,300百万円、以下「2022年普通ソーシャルボンド」）、2022年6月（1年債121百万円、以下「2022年第1回デジタルソーシャルボンド」）、2022年10月（1年債119百万円、以下「2022年第2回デジタルソーシャルボンド」）に発行しました。その調達資金は、2023年3月31日時点でマイクロファイナンスプロジェクトに充当されています。2023年6月、丸井グループは、2022年普通ソーシャルボンド、2022年第1回デジタルソーシャルボンド、2022年第2回デジタルソーシャルボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが丸井グループソーシャルボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）¹で設定された資金使途のクライテリアやレポートの指標に合致しているかについての評価を、サステナリティクスに委託しました。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2022年3月から2023年3月の間に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表1に示します。

表1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
<p>必要不可欠なサービスへのアクセス (資金調達と金融サービス)</p> <p>社会経済的向上とエンパワーメント (資産、サービス、リソース及び機会への公平なアクセスとコントロール。所得格差の縮小含む、市場と社会への公平な参加と統合)</p>	<p>マイクロファイナンスを手掛ける会社への融資。具体的には、五常・アンド・カンパニー株式会社およびクラウドクレジット株式会社を通しての新興国への貸付費用。</p>	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 五常・アンド・カンパニーへの貸付概要 ◆ クラウドクレジットを通じたファンドへの貸付概要 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 五常・アンド・カンパニーおよびクラウドクレジットの該当ファンドを通じた最終受益者の人数 ◆ 最終受益者への貸付金総額 <p>※ 本件貸付分に限定せず、五常・アンド・カンパニーおよびクラウドクレジットを通じた該当ファンドの活動状況について開示資料等をもとに実務上可能な範囲で報告します。その他、金融リテラシー向上のための取り組みやその効果等についても、適宜報告します。</p>

¹ 丸井グループソーシャルボンドフレームワークは、こちらよりご覧頂けます。：
https://www.0101maruigroup.co.jp/pdf/settlement/22_0308/22_0308_3.pdf

発行体の責任

丸井グループは、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステナリティクスは、丸井グループの 2022 年普通ソーシャルボンド、2022 年第 1 回デジタルソーシャルボンド、2022 年第 2 回デジタルソーシャルボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、丸井グループの従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、適格カテゴリー内の対象プロジェクトに関して丸井グループから提示された情報と事実に依拠しています。丸井グループが不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果²、すべての重要な側面において、株式会社丸井グループの 2022 年普通ソーシャルボンド、2022 年第 1 回デジタルソーシャルボンド、2022 年第 2 回デジタルソーシャルボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、丸井グループソーシャルボンドフレームワークで規定された資金用途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。丸井グループは、サステナリティクスに対し、2022 年普通ソーシャルボンド、2022 年第 1 回デジタルソーシャルボンド、2022 年第 2 回デジタルソーシャルボンドの調達資金が 2023 年 3 月 31 日時点で全額充当されていたことを開示しました。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

評価基準	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金用途 クライテリア	2022 年 3 月から 2023 年 3 月の間に、2022 年普通ソーシャルボンド、2022 年第 1 回デジタルソーシャルボンド、2022 年第 2 回デジタルソーシャルボンドの調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表 1 に示されている資金用途クライテリアとの適合性を検証。	審査したプロジェクトは資金用途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティング クライテリア	2022 年 3 月から 2023 年 3 月の間に、2022 年普通ソーシャルボンド、2022 年第 1 回デジタルソーシャルボンド、2022 年第 2 回デジタルソーシャルボンドの調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表 1 に示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証。	審査したプロジェクトにおいて、フレームワークで設定された各資金用途クライテリアに対するインパクト指標が報告されていました。	該当なし

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

参考資料

参考資料 1：ソーシャルボンドの調達資金の充当状況³

調達資金の用途の カテゴリー	ボンド	調達資金の 充当額 (百万円)
必要不可欠なサービスへの アクセス (資金調達と金融サービス)	2022 年普通ソーシャルボンド ⁴	1,285
社会経済的向上とエンパワー メント (資産、サービス、リソース 及び機会への公平なアクセス とコントロール。所得格差の 縮小含む、市場と社会への公 平な参加と統合)	2022 年第 1 回デジタルソーシャルボンド ⁵	96
	2022 年第 2 回デジタルソーシャルボンド ⁶	88
調達資金の充当額合計：		1,471
ソーシャルボンド発行による調達資金の手取り額合計：		1,471
調達資金の未充当額合計：		0

参考資料 2：プロジェクトのインパクト一覧⁷

調達資金の用途の カテゴリー	インパクト指標
必要不可欠なサービスへの アクセス (資金調達と金融サービス)	【アウトカム】 ◆ 五常・アンド・カンパニーおよびクラウドクレジットの該当 ファンドを通じた最終受益者の人数：約 33,000 名 ◆ 最終受益者への貸付金総額：15 億円
社会経済的向上とエンパワー メント (資産、サービス、リソース 及び機会への公平なアクセス とコントロール。所得格差の 縮小含む、市場と社会への公 平な参加と統合)	

³ 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

⁴ ソーシャルボンド発行額 1,300 百万円から発行費用を除いた金額

⁵ ソーシャルボンド発行額 121 百万円から発行費用を除いた金額

⁶ ソーシャルボンド発行額 119 百万円から発行費用を除いた金額

⁷ 丸井グループによるインパクトレポートは、こちらよりご覧頂けます。：

https://www.0101maruigroup.co.jp/ir/pdf/impactbook/2023/impactbook_all.pdf

免責事項

© Sustainalytics 2023 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

サステナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。30年以上の間、グローバルな投資家の進化するニーズに応える高品質かつ先進的なソリューションを提供し続けています。その上で、ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、サステナリティクスは、数百に及ぶ企業や金融仲介者と協働してサステナビリティに関連する方針、実務、資金調達を検討を支援しています。サステナリティクスは、世界17カ所にオフィスを構え、40以上の産業グループにまたがる様々な分野の専門知識を持つ500人以上のアナリストを含む、1500人以上のスタッフを擁しています。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

又は、contact@sustainalytics.com にご連絡ください。

